

区有施設利用者アンケート結果

1 庁舎等

問1-1 利用者性別

- ・ 北部地区サービス事務所を除く全ての施設において女性が占める割合が高い。

問1-2 利用者年代

- ・ 総合庁舎、駒場行政サービス窓口、碑文谷保健センターでは、10歳代を除く全ての年代の利用がみられる。
- ・ 北部地区サービス事務所、南部地区サービス事務所、緑が丘行政サービス窓口では、40歳代から60歳代の利用が中心となっている。
- ・ 総合庁舎、目黒駅行政サービス窓口では、70歳代、80歳代の利用が20%を超えている。

問1-3 居住エリア

- ・ 全体では、区内の利用者が約79%を占めている。
- ・ 区内の利用者が60%以上を占めているのは、総合庁舎、北部地区サービス事務所、南部地区サービス事務所、駒場行政サービス窓口、緑が丘行政サービス窓口及び碑文谷保健センターとなっている。特に緑が丘行政サービス窓口は、100%を占めている。
- ・ 目黒駅行政サービス窓口では区外の利用者が約55%を占めている。

問1-4 利用者職業

- ・ 総合庁舎、駒場行政サービス窓口、碑文谷保健センターでは、様々な層の利用者がみられる。
- ・ 学生の利用があるのは駒場行政サービス窓口のみとなっている。

問2-2 利用日

- ・ 施設により偏りが異なるが、いずれも平日の利用が中心となっている。
- ・ 総合庁舎、駒場行政サービス窓口では土曜日および日曜日の利用がみられる。

問2-3 利用者時間帯

- ・ 全体では、午後の利用者が約57%を占めている。
- ・ 午前の利用者が多い施設は、北部地区サービス事務所、南部地区サービス事務所とな

っている。

- ・ 午後の利用者が多い施設は、総合庁舎、駒場行政サービス窓口、緑が丘行政サービス窓口、目黒駅行政サービス窓口及び碑文谷保健センターとなっている。
- ・ 緑が丘行政サービス窓口は、午後の利用者が100%を占めている。

問3-1 利用頻度

- ・ 総合庁舎、碑文谷保健センターでは、利用頻度のパターンが多岐にわたる傾向がみられる。
- ・ 週に4～5回以上の利用がみられるのは総合庁舎と碑文谷保健センターのみとなっている。
- ・ 目黒駅行政サービス窓口では、「本日がはじめての利用」が最も多い。

問3-2 交通手段

- ・ 徒歩および自転車・バイクを利用する割合が大きい。
- ・ 総合庁舎、南部地区サービス事務所、目黒駅行政サービス事務所では20%以上が公共交通機関を利用している。

問3-3 移動時間

- ・ 全体では、移動時間が15分以内の利用者が最も多く、約60%を占めている。
- ・ 全ての施設で、移動時間が15分以内の利用者が過半数を占めている。

問3-4 (1) 利用目的(本人)

- ・ 全体では、「窓口での手続き」の利用者が最も多く、約37%を占めている。
- ・ 碑文谷保健センターを除く全ての施設で「窓口での手続き」の利用者が最も多くなっている。
- ・ 碑文谷保健センターでは、「その他」の利用者が約50%と最も多く、次いで「講演・講習など事業参加」が約26%を占めている。

問3-4 (2) 利用目的(家族・知人)

- ・ 全体では、「窓口での手続き」の利用者が最も多く、約41%を占めている。
- ・ 目黒区総合庁舎では、「その他」の利用者が約43%と最も多く、次いで「和室の利用」が約29%を占めている。
- ・ 北部地区サービス事務所、南部地区サービス事務所、駒場行政サービス窓口と目黒駅行政サービス窓口では、「窓口での手続き」が最も多くなっている。
- ・ 碑文谷保健センターでは、「その他」の利用者が約44%と最も多く、次いで「講演・講習など事業参加」が約19%を占めている。

問4 利用理由

- ・ 全体では、「自宅から近いため」の利用者が最も多く、約35%を占めている。
- ・ 全ての施設で「自宅から近いため」の利用者が最も多い。

2 男女平等・共同参画センター

問1-1 利用者性別

- ・ 女性が占める割合が高く、約88%となっている。

問1-2 利用者年代

- ・ 60歳代の利用者が最も多く、約31%を占めている。

問1-3 居住エリア

- ・ 区内の利用者が約81%を占めている。

問1-4 利用職業

- ・ 専業主婦・主夫の利用者が最も多く約38%を占めており、次いで就業者の利用者が多い。

問2-2 利用日

- ・ 火曜日の利用者が最も多く、約38%を占めている。

問2-3 利用者時間帯

- ・ 午後の利用者が約66%を占めている。

問3-1 利用頻度

- ・ 月に1回程度の利用者が約53%を占めている。

問3-2 交通手段

- ・ 鉄道の利用者が最も多く約31%を占めており、次いで徒歩の利用者が多い。

問3-3 移動時間

- ・ 30分以内の利用者が最も多く、約38%を占めている。

問3-4 (1) 利用目的(本人)

- ・ 「研修室の利用」の利用者が約56%を占めている。

問3-4 (2) 利用目的(家族・知人)

- ・ 「会議室・集会室の利用」と「研修室の利用」の利用者が各々約33%を占めている。

問4 利用理由

- ・ 「活動拠点となっているため」の利用者が約23%と最も多く、次いで「サークル・団体の集まり」が約19%を占めている。

3 住区センター

問1-1 利用者性別

- ・ 全ての施設で女性が占める割合が高い。東根住区センターは80%以上ととりわけ高い傾向にある。

問1-2 利用者年代

- ・ 全体では、60歳代の利用者が最も多く、約25%を占めている。
- ・ 駒場住区センターでは、60歳代の利用者が最も多く、約42%を占めている。
- ・ 菅刈住区センターでは、30歳代の利用者が最も多く、約26%を占めている。
- ・ 東山住区センターでは、40歳代の利用者が最も多く、約24%を占めている。
- ・ 鳥森住区センターでは、40歳代の利用者が最も多く、約29%を占めている。
- ・ 中目黒住区センターでは、40歳代の利用者が最も多く、約33%を占めている。
- ・ 田道住区センターでは、70歳代の利用者が最も多く、約28%を占めている。
- ・ 田道住区センター三田分室では、60歳代の利用者が最も多く、約28%を占めている。
- ・ 下目黒住区センターでは、60歳代の利用者が最も多く、約23%を占めている。
- ・ 不動住区センターでは、60歳代の利用者が最も多く、約39%を占めている。
- ・ 上目黒住区センターでは、60歳代の利用者が最も多く、約32%を占めている。
- ・ 油面住区センターでは、60歳代の利用者が最も多く、約21%を占めている。
- ・ 五本木住区センターでは、60歳代の利用者が最も多く、約37%を占めている。
- ・ 鷹番住区センターでは、60歳代の利用者が最も多く、約29%を占めている。
- ・ 月光原住区センターでは、60歳代の利用者が最も多く、約30%を占めている。
- ・ 向原住区センターでは、60歳代と70歳代の利用者が多く、各々で約31%を占めている。
- ・ 碑住区センターでは、40歳代の利用者が最も多く、約27%を占めている。

- ・ 原町住区センターでは、40歳代、60歳代と70歳代の利用者が多く、各々約20%を占めている。
- ・ 大岡山東住区センターでは、50歳代の利用者が最も多く、約24%を占めている。
- ・ 大岡山西住区センターでは、40歳代の利用者が最も多く、約23%を占めている。
- ・ 中根住区センターでは、60歳代の利用者が最も多く、約27%を占めている。
- ・ 自由が丘住区センターでは、60歳代の利用者が最も多く、約31%を占めている。
- ・ 自由が丘住区センター宮前分室では、50歳代の利用者が最も多く、約35%を占めている。
- ・ 八雲住区センターでは、50歳代の利用者が最も多く、約26%を占めている。
- ・ 東根住区センターでは、40歳代の利用者が最も多く、約29%を占めている。
- ・ 八雲住区センター中根一丁目会議室では、60歳代と70歳代の利用者が多く、各々約24%を占めている。

問1-3 居住エリア

- ・ 全体では、区内の利用者が約63%を占めている。
- ・ 菅刈住区センターと自由が丘住区センター宮前分室では、区外の利用者が最も多く、これら以外の施設では、区内の利用者が最も多くなっている。

問1-4 利用者職業

- ・ 全体では、就業者の利用者が最も多く、約38%を占めている。
- ・ 駒場住区センターでは、専業主婦・主夫の利用者が最も多く、33%を占めている。
- ・ 菅刈住区センターでは、就業者の利用者が約67%を占めている。
- ・ 東山住区センターでは、就業者の利用者が最も多く、約48%を占めている。
- ・ 島森住区センターでは、就業者の利用者が約54%を占めている。
- ・ 中目黒住区センターでは、就業者の利用者が約51%を占めている。
- ・ 田道住区センターでは、就業者の利用者が最も多く、約41%を占めている。
- ・ 田道住区センター三田分室では、就業者の利用者が約54%を占めている。
- ・ 下目黒住区センターでは、就業者の利用者が最も多く、約45%を占めている。
- ・ 不動住区センターでは、専業主婦・主夫の利用者が最も多く、約35%を占めている。
- ・ 上目黒住区センターでは、就業者の利用者が最も多く、約43%を占めている。
- ・ 油面住区センターでは、就業者の利用者が最も多く、約48%を占めている。
- ・ 五本木住区センターでは、専業主婦・主夫の利用者が約56%を占めている。
- ・ 鷹番住区センターでは、専業主婦・主夫の利用者が最も多く、約36%を占めている。
- ・ 月光原住区センターでは、専業主婦・主夫の利用者が最も多く、約33%を占めている。
- ・ 向原住区センターでは、就業者の利用者が最も多く、約36%を占めている。

- ・ 碑住区センターでは、就業者の利用者が最も多く、約36%を占めている。
- ・ 原町住区センターでは、就業者の利用者が最も多く、約48%を占めている。
- ・ 大岡山東住区センターでは、専業主婦・主夫の利用者が最も多く、約50%を占めている。
- ・ 大岡山西住区センターでは、就業者の利用者が最も多く、約43%を占めている。
- ・ 中根住区センターでは、就業者の利用者が約64%を占めている。
- ・ 自由が丘住区センターでは、専業主婦・主夫の利用者が最も多く、約43%を占めている。
- ・ 自由が丘住区センター宮前分室では、専業主婦・主夫の利用者が多く、約65%を占めている。
- ・ 八雲住区センターでは、就業者と専業主婦・主夫の利用者が各々約40%を占めている。
- ・ 東根住区センターでは、専業主婦・主夫の利用者が多く、約53%を占めている。
- ・ 八雲住区センター中根一丁目会議室では、専業主婦・主夫の利用者が多く、約29%を占めている。

問2-2 利用日

- ・ 全体では、土曜日の利用者が約20%と最も多く、次いで水曜日が約16%を占めている。
- ・ 駒場住区センターでは、木曜日の利用者が最も多く、約28%を占めている。
- ・ 菅刈住区センターでは、土曜日の利用者が最も多く、約33%を占めている。
- ・ 東山住区センターでは、水曜と土曜日の利用者が各々約20%を占めている。
- ・ 鳥森住区センターでは、水曜日の利用者が最も多く、約29%を占めている。
- ・ 中目黒住区センターでは、火曜日の利用者が最も多く、約37%を占めている。
- ・ 田道住区センターでは、火曜日の利用者が最も多く、約18%を占めている。
- ・ 田道住区センター三田分室では、土曜日の利用者が最も多く、約23%を占めている。
- ・ 下目黒住区センターでは、水曜日の利用者が最も多く、約23%を占めている。
- ・ 不動住区センターでは、土曜日の利用者が最も多く、約30%を占めている。
- ・ 上目黒住区センターでは、土曜日の利用者が最も多く、約24%を占めている。
- ・ 油面住区センターでは、土曜日の利用者が最も多く、約28%を占めている。
- ・ 五本木住区センターでは、月曜日と火曜日の利用者が各々約24%を占めている。
- ・ 鷹番住区センターでは、水曜日の利用者が最も多く、約20%を占めている。
- ・ 月光原住区センターでは、金曜日の利用者が最も多く、約40%を占めている。
- ・ 向原住区センターでは、土曜日の利用者が最も多く、約39%を占めている。
- ・ 碑住区センターでは、木曜日の利用者が最も多く、約29%を占めている。
- ・ 原町住区センターでは、火曜日の利用者が最も多く、約34%を占めている。

- ・ 大岡山東住区センターでは、火曜日の利用者が最も多く、約30%を占めている。
- ・ 大岡山西住区センターでは、土曜日の利用者が最も多く、約25%を占めている。
- ・ 中根住区センターでは、水曜日と日曜日の利用者が各々約27%を占めている。
- ・ 自由が丘住区センターでは、木曜日の利用者が最も多く、約39%を占めている。
- ・ 自由が丘住区センター宮前分室では、火曜日と土曜日の利用者が各々約29%を占めている。
- ・ 八雲住区センターでは、金曜日の利用者が最も多く、約22%を占めている。
- ・ 東根住区センターでは、金曜日の利用者が最も多く、約25%を占めている。
- ・ 八雲住区センター中根一丁目会議室では、土曜日の利用者が最も多く約41%を占めている。

問2-3 利用者時間帯

- ・ 全体では、午後の利用者が最も多く、約40%を占めている。
- ・ 午前の利用者が多い施設は、月光原住区センター、東根住区センターとなっている。
- ・ 午後の利用者が多い施設は、駒場住区センター、菅刈住区センター、東山住区センター、中目黒住区センター、田道住区センター、不動住区センター、五本木住区センター、鷹番住区センター、碑住区センター、大岡山東住区センター、大岡山西住区センター、自由が丘住区センター、自由が丘住区センター宮前分室、八雲住区センター及び八雲住区センター中根一丁目会議室となっている。
- ・ 夜間の利用者が多い施設は、鳥森住区センター、田道住区センター三田分室、上目黒住区センター、油面住区センター、向原住区センター、原町住区センター及び中根住区センターとなっている。
- ・ 下目黒住区センターでは、午後と夜間の利用者が各々約36%となっている。

問3-1 利用頻度

- ・ 全体では、週に1回程度と月に1回程度の利用者が各々約26%を占めている。

問3-2 交通手段

- ・ 全体では、徒歩の利用者が最も多く約45%を占めており、次いで自転車・バイクの利用者が多い。

問3-3 移動時間

- ・ 全体では、15分以内の利用者が最も多く、約53%を占めている。

問3-4 (1) 利用目的(本人)

- ・ 全体では、「会議室・集会室の利用」の利用者が約47%を占めている。

問3-4 (2) 利用目的(家族・知人)

- ・ 全体では、「会議室・集会室の利用」の利用者が約44%を占めている。

問4 利用理由

- ・ 全体では、「自宅から近いため」の利用者が約23%と最も多く、次いで「サークル・団体の集まり」が約17%を占めている。

4 中小企業センター等

問1-1 利用者性別

- ・ 勤労福祉会館、中小企業センターでは男性の割合が高く、全体の構成比も同様となっている。

問1-2 利用者年代

- ・ いずれの施設も利用者層が多岐にわたる。
- ・ 中小企業センターでは、10歳代を除く全ての年代の利用がみられる。
- ・ 消費生活センターでは、80歳代を除く全ての年代の利用がみられる。

問1-3 居住エリア

- ・ 勤労福祉会館と中小企業センターでは、区外の利用者が過半数を占めている。
- ・ 消費生活センターでは、区内の利用者が過半数を占めている。

問1-4 利用者職業

- ・ 勤労福祉会館と中小企業センターでは、就業者の利用者が70%超を占めている。
- ・ 消費生活センターでは、専業主婦・主夫の利用者が最も多く、約37%を占めている。

問2-2 利用日

- ・ 勤労福祉会館では、土曜日の利用者が最も多く、約27%を占めている。
- ・ 中小企業センターでは、土曜日の利用者が最も多く、約23%を占めている。
- ・ 消費生活センターでは、木曜日と日曜日の利用者が各々約37%を占めている。

問2-3 利用者時間帯

- ・ 勤労福祉会館と中小企業センターでは、午後の利用者が過半数を占めている。
- ・ 消費生活センターでは、午後の利用者が約70%を占めている。

問3-1 利用頻度

- ・ 勤労福祉会館では、「月に1回程度」の利用者が最も多く、約31%を占めている。
- ・ 中小企業センターでは、「月に1回程度」の利用者が多く、約30%を占めている。
- ・ 消費生活センターでは、「週に1回程度」の利用者が多く、約37%を占めている。

問3-2 交通手段

- ・ 勤労福祉会館と中小企業センターでは、鉄道の利用者が最も多く、40%超を占めている。
- ・ 消費生活センターでは、バスの利用者が最も多く、約30%を占めている。

問3-3 移動時間

- ・ 勤労福祉会館では、移動時間が1時間以内の利用者が最も多く、約39%を占めている。
- ・ 中小企業センターでは、移動時間が30分以内の利用者が約32%と最も多く、次いで1時間以内が約30%を占めている。
- ・ 消費生活センターでは、移動時間が15分以内と30分以内の利用者が各々約33%を占めている。

問3-4 (1) 利用目的(本人)

- ・ 勤労福祉会館では、「会議室・集会室の利用」が最も多く、約54%を占めている。
- ・ 中小企業センターでは、「会議室・集会室の利用」が最も多く、約84%を占めている。
- ・ 消費生活センターでは、「その他」が最も多く、約91%を占めている。

問3-4 (2) 利用目的(家族・知人)

- ・ 勤労福祉会館では、「会議室・集会室の利用」と「研修室の利用」が多く、各々約20%を占めている。
- ・ 中小企業センターでは、「会議室・集会室の利用」が100%を占めている。
- ・ 消費生活センターでは、「その他」が100%を占めている。

問4 利用理由

- ・ 勤労福祉会館では、「交通アクセスがよい・場所がわかりやすいため」の利用者が最も多く、約20%を占めている。
- ・ 中小企業センターでは、「使い慣れているため」の利用者が最も多く、約15%を占めている。
- ・ 消費生活センターでは、「その他」の利用者が最も多く、約29%と最も多く、次いで「活動拠点となっているため」が約27%を占めている。

5 児童館

問1-1 利用者性別

- ・ 全ての施設で女性が占める割合が高い。

問1-2 利用者年代

- ・ 駒場児童館では、30歳代の利用者が中心となっている。
- ・ 東山児童館、不動児童館及び中央町児童館では、30歳から40歳代の利用が中心となっている。
- ・ 上記以外の施設では、30歳代の利用者が60%以上を占めている。

問1-3 居住エリア

- ・ 全ての施設で区内の利用者が60%以上を占めている。特に、中目黒住区センター児童館及び八雲住区センター児童館は、100%となっている。

問1-4 利用者職業

- ・ 専業主婦・主夫の利用者が60%以上となっているは、不動児童館を除く全ての施設となっている。
- ・ 不動児童館は、就業者の利用者が約59%を占めており、様々な層から利用されている。

問2-2 利用日

- ・ 施設により偏りが異なるが、平日の利用が中心となっている。
- ・ 不動児童館及び上目黒住区センター児童館では、土曜日の利用が50%以上を占めている。

問2-3 利用者時間帯

- ・ 午前の利用者が多い施設は、駒場児童館、東山児童館、鳥森住区センター児童館、目黒区民センター児童館、油面住区センター児童館、五本木住区センター児童館、中央町児童館、向原住区センター児童館、原町住区センター児童館、八雲住区センター児童館となっている。特に、八雲住区センター児童館は午前の利用者が100%を占めている。
- ・ 午後の利用者が多い施設は、中目黒住区センター児童館、不動児童館、上目黒住区センター児童館、緑が丘児童館となっている。

問3-1 利用頻度

- ・ 不動児童館、五本木住区センター児童館では、利用頻度のパターンが多岐にわたる傾向がみられる。
- ・ 上記以外の施設では、週に2～3回程度から週に1回程度の利用者が中心となっている。

問3-2 交通手段

- ・ 全ての施設において、徒歩及び自転車・バイクを利用する割合が大きい
- ・ 駒場児童館では、公共交通機関も利用している。

問3-3 移動時間

- ・ 全ての施設で、移動時間が15分以内の利用者が60%以上となっている。

問3-4 (1) 利用目的(本人)

- ・ 全ての施設で「児童館の利用」の利用者が最も多くなっている。特に中目黒住区センター児童館及び八雲住区センター児童館は100%となっている。

問3-4 (2) 利用目的(家族・知人)

- ・ 全ての施設で「児童館の利用」の利用者が最も多くなっている。特に中目黒住区センター児童館及び八雲住区センター児童館は100%となっている。
- ・ 目黒区民センター児童館、向原住区センター児童館では、比較的利用目的が多岐にわたっている。

問4 利用理由

- ・ 中目黒住区センター児童館及び中央町児童館を除く全ての施設において、「自宅から近い」の利用者が最も多くなっている。
- ・ 中目黒住区センター児童館及び中央町児童館は、「使い慣れているため」の利用者が多く、加えて中央町児童館は「施設がきれいなため」の利用者も多くなっている。

6 高齢者福祉施設(高齢者センター)

問1-1 利用者性別

- ・ 女性の利用者が過半数を占めている。

問1-2 利用者年代

- ・ 70歳代の利用者が過半数を占めている。

問1-4 利用者職業

- ・ 無職の利用者が過半数を占めている。

問2-2 利用日

- ・ 平日の利用が中心となっている。

問2-3 利用者時間帯

- ・ 午前の利用が最も多く約49%を占めているが、午後の利用者も約39%を占めている。

問3-1 利用頻度

- ・ 週に2～3回程度の利用者が最も多く、約32%を占めている。

問3-2 交通手段

- ・ 徒歩の利用者が最も多く約50%を占めているが、バスも約32%を占めている。

問3-3 移動時間

- ・ 移動時間が30分以内の利用者が最も多く、約46%を占めている。

問3-4 (1) 利用目的(本人)

- ・ 利用目的は多岐にわたっているが、「会議室・集会室の利用」が約28%を占めて最も多くなっている。

問3-4 (2) 利用目的(家族・知人)

- ・ 利用目的は多岐にわたっているが、「会議室・集会室の利用」が約25%を占めて最も多くなっている。

問4 利用理由

- ・ 利用目的は多岐にわたっているが、「自宅から近いため」が約20%を占めて最も多くなっている。

7 老人いこいの家

問1-1 利用者性別

- ・ 碑及び八雲を除く全ての施設において女性が占める割合が高い。

問1-2 利用者年代

- ・ 全ての施設において70歳代から80歳代以上の利用が中心となっている。

問1-4 利用者職業

- ・ 全ての施設において専業主婦・主夫と無職の利用者で70%以上を占めている。

問2-2 利用日

- ・ 施設により偏りが異なるが、平日の利用が中心となっている。

問2-3 利用者時間帯

- ・ 午前の利用者が多い施設は、菅刈、鳥森、下目黒、不動、中町、五本木、碑、中根、自由が丘となっている。
- ・ 上記以外の施設は、午後の利用者が多くなっている。

問3-1 利用頻度

- ・ 菅刈、向原及び八雲では、週に2～3回程度の利用者が60%以上を占めている。
- ・ 田道では、月に1回程度の利用者が約95%を占めている。
- ・ 上記以外の施設では、利用頻度のパターンが多岐にわたる傾向がみられる。

問3-2 交通手段

- ・ 徒歩及び自転車・バイクを利用する割合が大きい
- ・ 下目黒及び宮前分室では、公共交通機関を利用する割合が20%以上を占めている。

問3-3 移動時間

- ・ 駒場、八雲では、移動時間が30分以内の利用者が最も多くなっている。
- ・ 宮前分室では、移動時間が15分以内及び30分以内の利用者が各々約35%を占めている。
- ・ 上記以外の施設では、移動時間が15分以内の利用者が最も多くなっている。

問3-4 (1) 利用目的(本人)

- ・ 上二、鷹番では、「会議室・集会室の利用」の利用者が最も多くなっている。
- ・ 向原では、「会議室・集会室の利用」及び「広間・和室の利用」の利用者が各々約50%を占めている。
- ・ 上記以外の施設では、「広間・和室の利用」の利用者が最も多くなっている。

問3-4 (2) 利用目的(家族・知人)

- ・ 菅刈、東根では「和室の利用」の利用者が最も多くなっている。
- ・ 三田分室、不動、碑、中根では、「広間・和室の利用」の利用者が最も多くなっている。
- ・ 上目黒では、「広間・和室の利用」の利用者が約50%を占めている。

問4 利用理由

- ・ 利用理由は多岐に渡るが、田道と宮前分室を除く全ての施設において、「自宅から近い
ため」の利用者が20%以上を占めている。
- ・ 田道と宮前分室では、「講座・教室等が開催されるため」の利用者が40%以上を占
めている。
- ・ 碑では、「サークル・団体の集まり」の利用者が40%以上を占めている。

8 その他学校施設(学校サポートセンター)

問1-1 利用者性別

- ・ 男性が約60%を占めている。

問1-2 利用者年代

- ・ 60歳代の利用者が最も多く、約40%を占めている。
- ・ 10歳代、40歳代、70歳代の利用者が各々約20%を占めている。

問1-3 居住エリア

- ・ 区内の利用者が100%を占めている。

問1-4 利用者職業

- ・ 就業者と専業主婦・主夫の利用者が各々約40%を占めている。

問2-2 利用日

- ・ 土曜日の利用者が最も多く、約60%を占めている。
- ・ 木曜日の利用者が約40%を占めている。

問2-3 利用者時間帯

- ・ 午前の利用者が最も多く、約80%を占めている。

問3-1 利用頻度

- ・ 週に2~3回以上と月に1回程度の利用者が各々約40%を占めている。

問3-2 交通手段

- ・ 自転車・バイクの利用者が最も多く、約60%を占めている。
- ・ 鉄道の利用者が約40%を占めている。

問3-3 移動時間

- ・ 移動時間が15分以内の利用者が最も多く、約60%を占めている。
- ・ 30分以内の利用者が約40%を占めている。

問3-4 (1) 利用目的(本人)

- ・ 「研修室の利用」の利用者が最も多く、約50%を占めている。

問4 利用理由

- ・ 利用理由は多岐に渡るが、「サークル・団体の集まり」と「利用料金が安い(又は無料のため)」が各々約17%を占めている。

9 文化施設(ホール・美術館)

問1-1 利用者性別

- ・ 目黒区美術館とすずめのお宿緑地公園古民家を除く全ての施設において、女性が占める割合が高い。

問1-2 利用者年代

- ・ 各施設によって主要な利用者年代が大きく異なっている。目黒区美術館では、80歳以上の利用者が最も多くなっているが、すずめのお宿緑地公園古民家では、30歳代の利用者が最も多くなっている。

問1-3 居住エリア

- ・ 目黒区美術館では区内の利用者が最も多く、約71%を占めている。
- ・ めぐるパーシモンホールでは区外の利用者が最も多く、約65%を占めている。
- ・ 上記以外の施設では、区内と区外の利用者が同率となっている。

問1-4 利用者職業

- ・ 目黒区美術館を除く全ての施設において、就業者の利用者が最も多くなっている。
- ・ 目黒区美術館では無職の利用者が最も多く、約57%を占めている。

問2-2 利用日

- ・ 平日の利用者が過半数を占めている施設は、めぐろパーシモンホール、中目黒G Tプラザホールとなっている。
- ・ 休日の利用者が過半数を占めている施設は、中小企業センターホール、目黒区美術館、すすめのお宿緑地公園古民家となっている。
- ・ めぐろ歴史資料館では、平日と休日の利用者が各々約50%となっている。

問2-3 利用者時間帯

- ・ めぐろパーシモンホールでは午前の利用者が最も多く、約59%を占めている。
- ・ 中目黒G Tプラザホール、中小企業センターホール、すすめのお宿緑地公園古民家では、午後の利用者が最も多くなっている。
- ・ 目黒区美術館とめぐろ歴史資料館では、午前と午後の利用者が同率となっている。

問3-1 利用頻度

- ・ めぐろパーシモンホール、中目黒G Tプラザホール、目黒区美術館では、利用頻度のパターンが多岐にわたる傾向がみられる。
- ・ 中小企業センターホールでは年に1回程度の利用者が最も多く、約71%を占めている。
- ・ めぐろ歴史資料館、すすめのお宿緑地公園古民家では、「本日がはじめての利用」が最も多い。

問3-2 交通手段

- ・ めぐろパーシモンホール、中目黒G Tプラザホール、目黒区美術館では、公共交通機関の利用者が過半数を占めている。
- ・ すずめのお宿緑地公園古民家では徒歩の利用者が最も多く、約69%を占めている。

問3-3 移動時間

- ・ 中目黒G Tプラザホール、中小企業センターホール、すすめのお宿緑地公園古民家では、移動時間が15分以上の利用者が最も多くなっている。
- ・ めぐろパーシモンホールでは、15分以内と30分以内の利用者で約71%を占めている
- ・ 目黒区美術館では1時間以内の利用者が最も多く、約43%を占めている。
- ・ めぐろ歴史資料館では、1時間以上の利用者が最も多く、約38%を占めている。

問3-4 (1) 利用目的(本人)

- ・ めぐろパーシモンホール、中目黒G Tプラザホール、中小企業センターホールでは、「ホ

ールの利用」の利用者が最も多くなっている。

- ・ 目黒区美術館、めぐろ歴史資料館では、「美術館・資料館等見学」の利用者が最も多くなっている。

問3-4 (2) 利用目的(家族・知人)

- ・ めぐろパーシモンホール、中目黒GTプラザホール、では、「ホールの利用」の利用者が最も多くなっている。
- ・ 中小企業ホール、めぐろ歴史資料館では、「美術館・資料館等見学」の利用者が100%となっている。
- ・ すずめのお宿緑地公園古民家では、「その他」の利用者が最も多くなっている。
- ・ 目黒区美術館では、「ホールの利用」と「美術館・資料館等見学」が各々50%を占めている。

問4 利用理由

- ・ すずめのお宿緑地公園古民家では「自宅から近い」の利用者が最も多く、約45%を占めている。
- ・ 上記以外の施設では、利用理由のパターンが多岐にわたる傾向がみられる。

10 社会教育館・青少年プラザ

問1-1 利用者性別

- ・ 全ての施設において女性が占める割合が高い。

問1-2 利用者年代

- ・ 東山社会教育館では、40歳代から60歳代の利用者が中心となっている。
- ・ 目黒区民センター社会教育館、中央町社会教育館、目黒本町社会教育館、緑が丘文化会館では、50歳代から70歳代の利用者が中心となっている。
- ・ 青少年プラザでは、30歳代から40歳代の利用者が中心となっている。

問1-3 居住エリア

- ・ 全ての施設において区内の利用者が最も多くなっている。

問1-4 利用者職業

- ・ 目黒区民センター社会教育館と青少年プラザでは、就業者の利用者が最も多くなっている。
- ・ 上記以外の施設では、専業主婦・主夫の利用者が最も多くなっている。

問2-2 利用日

- ・ 全ての施設において、利用日は比較的分散している。
- ・ 中央町社会教育館では、土曜日及び日曜日の利用が少ない。

問2-3 利用者時間帯

- ・ 中央町社会教育館では午前の利用者が最も多く、約43%を占めている。
- ・ 上記以外の施設では、午後の利用者が最も多くなっている。

問3-1 利用頻度

- ・ 目黒本町社会教育館、緑が丘文化会館では、週に1回程度の利用が最も多くなっている。
- ・ 東山社会教育館、中央町社会教育館では、2週間に1回程度の利用が最も多くなっている。
- ・ 目黒区民センター社会教育館、青少年プラザでは、月に1回程度の利用が最も多くなっている。

問3-2 交通手段

- ・ 東山社会教育館、目黒区民センター社会教育館、目黒本町社会教育館、緑が丘文化会館、青少年プラザでは、徒歩の利用者が最も多くなっている。
- ・ 中央町社会教育館では、自転車・バイクの利用者が最も多くなっている。

問3-3 移動時間

- ・ 東山社会教育館では、15分以内と1時間以内の利用者が各々約33%を占めている。
- ・ 中央町社会教育館、緑が丘文化会館では、15分以内の利用者が40%以上を占めている。
- ・ 目黒区民センター社会教育館、目黒本町社会教育館、青少年プラザでは、30分以内の利用者が最も多くなっている。

問3-4 (1) 利用目的(本人)

- ・ 東山社会教育館では「ホールの利用」の利用者が最も多く、約50%を占めている。
- ・ 目黒区民センター社会教育館、中央町社会教育館、目黒本町社会教育館、緑が丘文化会館では、「会議室・研修室の利用」の利用者が最も多くなっている。
- ・ 青少年プラザでは、「練習室・音楽室の利用」と「和室の利用」の利用者が最も多くなっている。

問3-4 (2) 利用目的(家族・知人)

- ・ 東山社会教育館、青少年プラザでは、「練習室・音楽室の利用」の利用者が最も多くなっている。
- ・ 上記以外の施設では、「会議室・研修室の利用」の利用者が最も多くなっている。

問4 利用理由。

- ・ 東山社会教育館、目黒区民センター社会教育館、中央町社会教育館、目黒本町社会教育館、緑が丘文化会館では、「サークル・団体の集まり」の利用者が最も多くなっている。
- ・ 青少年プラザでは、「交通アクセスがよい・場所がわかりやすいため」の利用者が最も多くなっている。

1.1 体育施設

問1-1 利用者性別

- ・ 砧球技場管理事務所では、男性の利用が約86%を占めている。
- ・ 碑文谷体育館、西部地区プールは、女性の利用が60%以上を占めている。
- ・ その他の施設は、男女比はほぼ同程度となっている。

問1-2 利用者年代

- ・ 砧球技場管理事務所では、40歳代の利用が約57%と過半数を占めている。
- ・ 目黒区民センター・碑文谷・八雲体育館は、60歳以上の利用が過半数を占めている。
- ・ 中央体育館、中央地区・南部地区プールは、10歳代から30歳代の利用が30%程度占めている。

問1-3 居住エリア

- ・ 西部地区プールを除く9施設で、区内の利用者が多い。
- ・ 西部地区プールは、区外の利用者が多く、約70%を占めている。

問1-4 利用者職業

- ・ 中央体育館、中央地区プール、砧球技場管理事務所では、就業者が50%以上占めている。
- ・ 碑文谷体育館、西部地区プールは、専業主婦・主夫、無職の利用が特に多い。

問2-2 利用日

- ・ 砧球技場管理事務所は土曜日・日曜日の利用が約92%、中央地区プールは、土曜日・

日曜日の利用が約55%を占めている。

- ・ その他の施設は、平日の利用が多い。

問2-3 利用者時間帯

- ・ 目黒区民センター・八雲体育館、西部地区プールは、午前の利用者が過半数を占めている。
- ・ 中央体育館では、夜間の利用の利用者が最も多く、約49%を占めている。
- ・ その他の施設は、午後の利用者が最も多い。

問3-1 利用頻度

- ・ 八雲体育館では、週に2～3回程度の利用者が最も多く、約67%を占めている。
- ・ 宮前公園庭球場管理事務所を除く全ての施設において、週に1回以上の定期利用が過半数を占めている。

問3-2 交通手段

- ・ 目黒区民センター体育館では、徒歩での利用者が最も多く、約53%を占めている。
- ・ 碑文谷・中央体育館、宮前公園庭球場管理事務所、中央地区・南部地区プールは、自転車・バイクでの利用者が最も多い。

問3-3 移動時間

- ・ 砦球技場管理事務所を除く全ての施設で、15分以内の利用者が最も多い。
- ・ 砦球技場管理事務所は、30分以内の利用者が最も多く、約53%を占めている。

問3-4 (1) 利用目的(本人)

- ・ 体育館は、「体育館の利用」が最も多く割合を占めているが、碑文谷体育館では「体育館の利用」に次いで「庭球場・ゲートボール場の利用」も多く、約26%を占めている。
- ・ 目黒区民センター体育館は、「プールの利用」が最も多く約33%で、次いで「トレーニング室の利用」が約29%となっている。

問3-4 (2) 利用目的(家族・知人)

- ・ 駒場体育館では、「プールの利用」が最も多く約47%を占めており、次いで「体育館の利用」が約40%となっている。
- ・ 目黒区民センター体育館は、「プールの利用」が最も多く約30%を占めている。
- ・ 碑文谷体育館は、「庭球場・ゲートボール場の利用」が最も多く約35%を占めている。

問4 利用理由

- ・ 砧球技場管理事務所を除く全ての施設で、「自宅から近いから」が最も多く、約24～38%を占めている。
- ・ 砧球技場管理事務所は、「活動拠点となっているため」が最も多く、約16%を占めている。

12 図書館

問1-1 利用者性別

- ・ ほとんどの施設において、女性の利用が多い。

問1-2 利用者年代

- ・ 洗足図書館では、60歳以上の利用者が多く、約67%を占めている。
- ・ 洗足図書館を除く全ての施設で、40歳代の利用が多く、約18～46%を占めている。
- ・ 全ての施設で、40歳以上の利用が約67%以上を占めている。

問1-3 居住エリア

- ・ 全ての施設で、区内の利用者が多い。

問1-4 利用者職業

- ・ 守屋図書館・目黒本町図書館・洗足図書館を除く5館は、就業者の利用が最も多く、約32%～約59%を占めている。
- ・ 守屋図書館は、専業主婦・主夫とパート・アルバイトの利用が各々約24%を占めている。
- ・ 目黒本町図書館は、無職の利用が最も多く、約44%を占めている。
- ・ 洗足図書館は、専業主婦・主夫の利用が最も多く、約44%を占めている。

問2-2 利用日

- ・ 土曜日・日曜日の利用が比較的多い傾向にある。

問2-3 利用者時間帯

- ・ 全ての施設において、午後の利用者が最も多い。
- ・ 中目黒駅前図書館の夜間利用は、約22%となっている。

問3-1 利用頻度

- ・ 全ての施設において、週1回以上の利用者が多く、どの施設も定期的に利用されている。
- ・ 特に、洗足図書館では週に2～3回の利用者が約56%と最も多い。

問3-2 交通手段

- ・ 目黒本町図書館は、自転車・バイクの利用者が最も多く、約56%を占めている。
- ・ その他の施設は徒歩での利用者が多い。

問3-3 移動時間

- ・ 全ての施設で、15分以内の利用者が最も多く、約52～76%を占めている。

問3-4 (1) 利用目的(本人)

- ・ 基本的には「図書等の貸出・返却・閲覧」の割合が多い。
- ・ 大橋図書館は「学習・調べもの」の割合が約40%となっている。

問3-4 (2) 利用目的(家族・知人)

- ・ 基本的には「図書等の貸出・返却・閲覧」の割合が多い。
- ・ 大橋図書館は「学習・調べもの」の割合が約50%となっている。

問4 利用理由

- ・ 全ての施設で「自宅から近い」が最も多く、約27～43%を占めている。
- ・ 中目黒駅前図書館では、「交通アクセスがよい・場所がわかりやすいため」という利用者が約23%と同様に高い割合となっている。

13 駐車場・駐輪場

問1-1 利用者性別

- ・ 男性の利用者が約65%と多い。

問1-2 利用者年代

- ・ 30歳代・40歳代の利用が多く、全体の約58%を占めている。

問1-3 居住エリア

- ・ 三田地区駐車場は、区外の利用者が約80%を占めている。

問1-4 利用者職業

- ・ 就業者の利用が最も多く、約76%を占めている。

問2-2 利用日

- ・ 火曜日から土曜日まで10～20%程度の利用がある。

問2-3 利用者時間帯

- ・ 午後の利用が約63%と過半数を占めている。

問3-1 利用頻度

- ・ 週に1回以上の利用者が約32%、月に1・2回程度の利用者約38%と、利用頻度にはばらつきがある。

問3-2 交通手段

- ・ 自動車の利用が約94%と大半を占めている。

問3-3 移動時間

- ・ 移動時間は、15分以内の利用者もあれば1時間以上かかる利用者もあり、ばらつきがある。

問3-4 (1) 利用目的(本人)

- ・ 利用目的は、「駐車場の利用」が約99%となっている。

問3-4 (2) 利用目的(家族・知人)

- ・ 利用目的は、「駐車場の利用」が100%となっている。

問4 利用理由

- ・ 「利用料金が安い(又は無料のため)」という利用者が最も多く、約23%を占めている。

14 公園事務所・公園施設

問1-1 利用者性別

- ・ 駒場公園和館、菅刈公園和館、花とみどりの学習館は、女性の利用が多く、約79%以上となっている。
- ・ 駒場野公園自然観察舎、衾野公園児童交通施設は、男女の割合は半々となっている。

問1-2 利用者年代

- ・ 駒場公園和館、菅刈公園和館、花とみどりの学習館は、50歳代～60歳代の利用が中心となっている。
- ・ 衾野公園児童交通施設は、30歳代・40歳代の利用が多く、全体の約88%を占めている。
- ・ 碑文谷公園動物舎は、30歳代の利用が最も多く、約53%と過半数を占めている。

問1-3 居住エリア

- ・ 駒場公園和館は、区外の利用者が多く、約86%を占めている。
- ・ 一方で、花とみどりの学習館は、区内の利用者が多く、約93%を占めている。

問1-4 利用者職業

- ・ 碑文谷公園動物舎、菅刈公園和館、衾野公園児童交通施設は、就業者の利用が最も多く、約50%程度となっている。
- ・ その他の施設は、専業主婦・主夫の利用が多い。

問2-2 利用日

- ・ 駒場野公園自然観察舎を除く5施設は、土曜日・日曜日の利用が多く、40～90%程度占めている。
- ・ 駒場野公園自然観察舎は、水曜日・木曜日の利用が多い。

問2-3 利用者時間帯

- ・ 碑文谷公園動物舎、菅刈公園和館は、午後の利用者が最も多く、約58～70%を占めている。
- ・ その他の施設は、午前の利用が多い。

問3-1 利用頻度

- ・ 花とみどりの学習館、駒場野公園自然観察舎は、週に1回以上定期的な利用者が多く、約50%と過半数を占める。
- ・ その他の施設では、「本日がはじめての利用」の利用者も10～30%程度いる。

問3-2 交通手段

- ・ 駒場野公園自然観察舎、衾野公園児童交通施設は、自転車・バイク利用が最も多い。
- ・ 駒場公園和館、駒場野公園自然観察舎は、鉄道での利用者も多くなっている。
- ・ 菅刈公園和館、花とみどりの学習館は、徒歩での利用が多い。

問3-3 移動時間

- ・ 駒場公園和館、菅刈公園和館を除く4施設は、15分以内の利用者が最も多い。
- ・ 駒場公園和館は、1時間以内、1時間以上の利用者がそれぞれ約43%となっている。
- ・ 菅刈公園和館は、30分以内の利用者が最も多く、約40%を占めている。

問3-4 (1) 利用目的(本人)

- ・ 各施設とも、主目的利用が大半を占めている。

問3-4 (2) 利用目的(家族・知人)

- ・ 各施設とも、主目的利用が大半を占めている。

問4 利用理由

- ・ 駒場公園和館、駒場野公園自然観察舎は、「居心地が良いため」が最も多い割合を占めている。
- ・ 菅刈公園和館は、「施設がきれいなため」が最も多く、約25%を占めている。
- ・ 碑文谷公園動物舎、花とみどりの学習館、衾野公園児童交通施設は、「自宅から近い」が最も多い割合を占めている。

15 環境施設・清掃施設(目黒エコプラザ)

問1-1 利用者性別

- ・ 女性の利用が約88%を占めている。

問1-2 利用者年代

- ・ 70歳代の利用が最も多く、約49%を占めている。次いで、60歳代が約27%となっている。

問1-3 居住エリア

- ・ 区内の利用者が約83%と多い。

問1-4 利用者職業

- ・ 専業主婦・主夫が最も多く、約49%を占めている。
- ・ 次いで、無職の割合が約23%と多い。

問2-2 利用日

- ・ 火曜日・水曜日の利用が全体の約89%を占めている。

問2-3 利用者時間帯

- ・ 午後の利用が約68%と多い。

問3-1 利用頻度

- ・ 月に1回程度の利用が約51%と過半数を占めている。
- ・ 次いで、週に2～3回の定期的利用が、約17%を占めている。

問3-2 交通手段

- ・ 徒歩及びバスの利用者がそれぞれ約34%ずつを占めている。

問3-3 移動時間

- ・ 30分以内の利用者が最も多く、約40%を占めている。
- ・ 次いで、15分以内の利用者が約34%と多い。

問3-4 (1) 利用目的(本人)

- ・ 活動室の利用が最も多く、約51%を占めている。
- ・ 次いで、リサイクルショップの利用が約31%と多い。

問3-4 (2) 利用目的(家族・知人)

- ・ 活動室の利用が100%となっている。

問4 利用理由

- ・ 「自宅から近いため」が最も多く約18%であるが、その他「活動拠点となっているため」が約13%、「交通アクセスがよい・場所がわかりやすいため」が約11%となっている。